

たるものなりとす。今之が經名、翻譯の原本、今日に存残せる同一の經典、經典の形式等に就て記述せんに、

一 經 名

經卷の末第四百三行の末より四百五行にかけて

403.

ngri burqan yrliqamış
佛 說

404.

yirli tngriili säkiz yükmäk yaruy bükülük arviš nom bitig
地 天 八 集 陽 神 呪 經
(I) (II)

405. bir tägzinč... nanno but... nanno drm... nanno sang.
一 卷 南無佛 南無法 南無僧

と記せり、これ即ち此の經名にして、南無佛、南無法、南無僧の文字は、もとより書寫せし人の附記せしものにして、
ぎざるべし、余は初め此の經名によりて、先づ漢文の一切經中に之と同様のものを求めたるに、法護譯に八陽神呪
經あり、開元錄等によれば、八吉祥神呪經、八吉祥經等と同本にして譯者を異にし、また八陽經とも稱せらるゝも
のなり、よりて直ちに之と對比せしも、何れも其の内容相合せず、其の後前述の如く義淨譯と記さるゝ佛說天地八
陽神呪經なるものが、大日本續藏經に收めらるゝを知りて(第二十三套第四冊) また直ちに之と比せしに、兩者殆んど全く相
合一するを知れり (東寺觀智院には此の經の鎌倉時代の寫本と思はるゝものを藏し、佛教大學には、又た朝、たゞ其の經名
鮮版の通行本を藏せり、今各々古寫本鮮本として、續藏本との異同を校異に擧げたり) 此の語はラドロフ氏の Kuan-ši-im
に於て、回鶻語のものには茲に記せるが如く (yükmäk) の一語を多しとす、